



辻元清美 国政NEWS

つじとも通信 VOL.22
2011.06.01

連絡先・編集：辻元清美とともに！市民ネットワーク
高槻事務所 ● 〒569-0805 大阪府高槻市上田辺町6-20 寺本レジデンス2F
TEL072-686-2395 FAX072-686-2396
国会事務所 ● 〒100-8982 東京都千代田区永田町2-1-2 衆議院第二議員会館504
TEL03-3508-7055 FAX03-3508-3855
URL http://www.kiyomi.gr.jp/ E-mail info@kiyomi.gr.jp

大きな被害を受けた岩手県陸前高田市のボランティアセンターにて。

「自然エネルギーへの転換」と「社会の絆の再生」は、日本の政治・経済だけでなく、私たちの生き方・価値観（ライフスタイル）を変えていきます。
では、どんな方向へ？
それは、「持続可能な共生社会」に向かっています。自然と人間の共生、都市と地方の共生、生産者と消費者の共生、世代間の共生、地域の共生、男女の共生、世界との共生……

しかし、このことは私たちが「いまからでも未来を選択できる」ということを示しているのではないのでしょうか。未来志向でつながり、政府、自治体、企業、研究者、市民が力を合わせ、考えぬき、いままでとは視点を変えたエネルギーのビジョンを探ることが大事です。
中央集権型ではない地域分散型エネルギー政策への転換、即ち「エネルギー・デモクラシー（民主化）」

ボランティア+エネルギー転換 → 共生社会へ！

本誌の記事・写真などの無断転載・複写を禁じます。

辻元清美国政報告会「永田町航海記」 『ボランティアと未来をひらく ——いま被災地では』

日時●2011年7月23日（土）
＜島本＞10：30～12：00
ところ●島本町ふれあいセンター1F健康教育指導室
＜高槻＞14：00～15：30
ところ●高槻現代劇場（旧館）4F402号室

東日本大震災の2日後、災害ボランティア担当の総理大臣補佐官に任命された辻元がこの4ヶ月の活動を報告します。また実際に現地で活動している方からの報告も予定しています。

入場無料・要予約※当日参加の方は通信の封筒をご持参ください。筆記通訳あり（会場横スクリーンに字幕を投影します）保育あり（年齢制限なし、要予約）、ゲスト未定

予約問合せTEL072-686-2395 FAX072-686-2396

つじともネット・被災地支援 2,412,500円 ※5/23現在 をお預かりしました。

東日本大震災の発生以降、辻元事務所にもメールやFAX、電話で被災地の情報や物資提供、ボランティアの申し出など、様々なご連絡をいただいています。また、前号のつじとも通信で震災募金へのご協力をお願いしましたが、5月12日現在で、275件、合計2,412,500円ものご協力をいただきました。ありがとうございました。大阪ボランティア協会を通じて被災地支援にあてさせていただきます。つじともネットとして、今後も継続的な被災地支援に取り組んでまいりますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

保坂展人・新世田谷区長に期待

私は初当選以来、国会内外で保坂展人さんとずっと一緒に働いてきた。国会の質問王で、子どもの問題にはとくに真剣に取り組んできた保坂さん。彼のまなざしはいつでも一番「弱いひと」に向けられてきた。

その保坂さんから「世田谷区長選挙に出ようと思う」と相談を受けたとき、私は迷わず背中を押した。未曾有の災害が現実のものとなり、日本中の自治体が他人事ではなく新しいビジョンを考え直さなければならない今、保坂さんの力が活かされないのはもったいない、と。

「ヤッター！」当確が出た時、私は思わず叫んでしまった。「95%は現区政を踏襲します。まずは5%を変えていきたい」と新区長としてのインタビューで答えた保坂さん。「カッコいいこと言うなあ」と私は思った。最初から力まず、すり足で、5%を変え続けていけばいい。私も今そう思いながら政権内で仕事をしている。

写真は中川ともこ・保坂展人・辻元清美、市民運動出身三人の初出馬記者会見の日。土井チルドレンと言われ「市民との絆」の旗を掲げて選挙を闘い当選したのは15年前。現在中川さんは宝塚市長、保坂さんは世田谷区長、「三人ともシブトイなあ」と共通の知人から言われた。これからも国と自治体の双方向からタッグを組んでいきたい。



カンパのお願い●辻元清美をご支援ください。

いつでもどこでも全力投球の辻元清美です。毎回のお願いで誠に恐縮ですが、無所属となり事務所の運営はますます厳しい状況です。カンパにぜひご協力をお願いします。

つじともネット会員募集中●

会報「つじとも通信」を年2～3回お届けする他、国政報告会「永田町航海記」等のご案内を差し上げます。
サポート会員：年 12,000円 ※ 毎月1,000円の郵便貯金自動引き落としもご利用いただけます。
一般会員：年3000円 学生会員：年1,000円
個人特別賛助会員：年50,000円/一口（寄付金扱い・上限30口迄）

郵便振替 00960-3-150256

加入者名 辻元清美とともに！市民ネットワーク

※なお、政治資金規制法により、「つじともネット」への寄付金は日本国籍の個人に限られています。団体・法人からの会費・寄付金のお申込はできません。



の実現は、社会全体の民主化と情報公開、そして市民の政治や経済への参加促進につながる。世界中で立証されています。私も含め現政権にはそこまでの道筋をつける責任があります。社会のしくみを転換させるのですから、摩擦もあるでしょう。しかし日本がこれだけの途方もない犠牲を払った以上、覚悟をもって前に進むのみです。

助けあいジャパン

「自分も何か役に立ちたい」そんな助け合いの思いや行動が日本中、世界中に広がっています。被災三県にはボランティアセンターが六四カ所立ち上がり、すでに登録

して活動したボランティアだけで三〇万人、国内外から駆けつけたNPO・NGOや各種団体は数えきれません。

阪神淡路大震災で私がボランティアとして活動したとき、政府や行政への提案・要望の窓口がなかったり、「たかがボランティア」という対応をされたり…。そこで翌年、「そんな政治を変えよう」とNPO法制定を公約に立候補しました。当選後は阪神淡路大震災の被災者の皆さんといっしょに、市民立法で「被災者生活再建支援法」制定にも取り組みました。

あれから一六年、今回の政権の対応は早かった。震災の

翌日には内閣府参与の湯浅誠さんに「ボランティア活動と連携したい」と菅総理が直接電話。その翌日に私は官邸によれば、災害ボランティア担当の内閣総理大臣補佐官に任命されました。市民運動出身の総理ならではの発想です。その日からボランティアを政府と対等なパートナーとして被災者支援の「協働」作業が始まりました。

宮城では「ボランティア団体・国・県・自衛隊」の被災者支援四者連絡会が立ち上がりました。炊き出しや物資配布、女性や子どものケアなど様々な課題を話し合っています。約五〇〇団体が加盟する「東日本大震災

支援全国ネットワーク」主催でNPO・NGOと政府の定期協議も重ねています。五月二五日には仙台でも開催され、私も参加しました。今までは考えられなかった動きです。

内閣総理大臣補佐官として

先日、友人でジャズシン

ガーの綾戸智恵さんに「辻元清美みたいな議員が官邸にいたこと自体、政治は変わったのでは」と言われましたが、私はみなさんに「辻元がいてよかった」と思っていただけ

先日、友人でジャズシン

ガーの綾戸智恵さんに「辻元清美みたいな議員が官邸にいたこと自体、政治は変わったのでは」と言われましたが、私はみなさんに「辻元がいてよかった」と思っていただけ

辻元清美

よう被災者支援、そして共生社会実現のために力を尽くしてまいります。



宮城県石巻市にて、「ボランティア支援のボランティア」をする地元の高校生たちと。

辻元清美は全力疾走中です。

- 08:00 宿舎発。
- 08:45 団体ボランティアの被災地出発式に参加。
- 11:00 定例の被災者生活支援特別対策チーム会合。この日の主な議題は中小企業の事業再建支援について。
- 13:00 内閣府で震災ボランティア連携室会議。寄せられる情報に室員が足で稼いだ情報も加え、中長期の見通しを検討。
- 15:30 「新しい公共」調査会会合、NPO法改正に向け調整が続く。合間に現地ボランティアコーディネーターから電話。「パーティションが避難所に配られない」「なんで!?政府は送ったで」原因を突き止め、行き渡るよう各所へ連絡。
- 16:30 再び官邸へ、担当記者とテーブルを囲んで意見交換。「ゴールデンウィークに向けた政府の活動」に関心が集まる。
- 17:30 財界関係者と会い、「ボランティア休暇の拡大」について支援要請と意見交換。
- 19:00 官邸で各省庁の副大臣と協議。その後政務会合へ。
- 09:00 会館事務所で障がい者団体と面談。
- 10:00 突然総理に呼ばれ面談。
- 12:00 官房副長官と昼食。
- 13:30 友人の歌手・石川さゆりさんとともに中央共同募金会へ寄付金を届ける立ち会い。
- 16:30 NPO・NGOと各省との定期協議。「女性や子どもの問題に協力しとりくもう」と提案。
- 18:00 会館に戻り被災地選出の国会議員と意見交換。与野党を問わず面会し、ボランティア活動や被災者支援の情報交換。
- 19:00 テレビ出演打ち合わせ。
- 21:30 週末からの被災地入りに向けて、秘書官と打ち合わせ。
- 22:00 政務会合へ。
- 23:45 会館に戻り、メールチェック。その後宿舎へ。資料を読み、明日の会議に備える。

「絆」を取り戻すために。

被災者を支える新しい取り組み

そもそも「総理大臣補佐官」って?

災害ボランティア担当総理大臣補佐官

総理官邸に「政治家」は何人いるかご存知でしょうか。菅総理大臣、枝野官房長官、仙谷・福山両官房副長官、そして五人の総理大臣補佐官。計九人の国会議員が官邸の五階で執務しており、各省庁から来ている職員のみなさんとタッグを組んでいます。

と思います。

五人の補佐官のうち細野豪志さんと馬淵澄夫さんは原発対応、芝博さんは国会対応、藤井裕久さんは社会保障・税の一体改革を担当。補佐官の机は相部屋の「補佐官室」に並んでいます。全員が一堂にそろうことはほとんどありません。私も含め、各持ち場に張り付いているからです。

私が力を入れてとりくんでいるのは、被災地の自治体やNPO・NGOからの要望を受けて、ボランティア活動をしやすいすること。同時に、被災者の生活支援についてボランティアの方々から寄せられた意見を、政府の施策に反映させること。これからもしつかり、菅総理に提言していきます。

省庁横断の「被災者支援」組織

被災者生活支援特別対策チーム、震災ボランティア連携室

被災者生活支援に関する総理大臣補佐官は現在私一人。私のいまの「現場」は次の二つで、政府の被災者生活支援政策全般に関与しています。

被災者生活支援の課題を議論するのが「被災者生活支援特別対策チーム」(以下生活支援チーム)。ほぼ毎日開催され仮設住宅やがれき処理、医療福祉、雇用や金融などあらゆる事案

が持ち込まれつづつ解決しています。ここで私は、例えば「炊き出し機材を送ろう」など「生活者の視点」「女性の視点」(女性のメンバーは私だけ)で様々な提案を行っています。

先日も仙谷副長官と二階に福島県相馬市を訪問したとき、相馬市長から受けた「仮設住宅に入る独居高齢者の孤独が心配。グループホーム型の仮設住宅を建てられないか」という提言を持ち帰り、翌日の会議で検討しました。

「震災ボランティア連携

室」(以下連携室)は、ボランティアセンターやNPO・NGOからの要望や意見の政府窓口二元化、関係省庁や国際機関との調整、情報提供や被災地ニーズへの対応などを行います。官民出身の室員が協働し、被災地のコーディネーターとも常に連絡をとりあつて活動しています。

この二つは、いわば前線に補給を行う「後方支援チーム」。自治体やボランティアの活動を支える縁の下の力もちで頑張ります。

生活支援チームの実績抜粋(2カ月)

- 避難所への支援
 - ・物資の調達と配送：県に代わって食料約2621万食、毛布約41万枚、燃料約1.6万キロリットルなどを支援
 - ・情報提供と広報：壁新聞、生活再建・事業再建ガイドブックなど
 - ・避難所の実態把握と環境改善
 - ・旅館・ホテルなどへの一時移転や民間住宅の借り上げを促進、公営住宅情報を提供
- 復旧に向けて
 - ・災害廃棄物処理：国レベルの総合調整を実施8月末までに概ね撤去
 - ・応急仮設住宅
 - ・雇用の創出：「日本はひとつ」仕事プロジェクトをとりまとめ
- その他
 - ・避難者の所在確認支援
 - ・行政機能の強化：市町村への人的支援促進
 - ・政府内の対策強化 等

多所彩々辻元清美の活動報告<抜粋>

- 1月**
- 1日 テレビ朝日「朝まで生テレビ」出演。※初旬～下旬まで 新年挨拶廻り。新年互礼会・旗開き出席。
 - 10日 高槻市成人祭。
 - 11～13日 日中友好協会訪中団参加(戴秉国國務委員、武大偉朝鮮問題特別代表、唐家セン元國務委員と会談)。
 - 14日 新しい公共調査会役員会。
 - 15日 NPO団体合会(高槻市)。
 - 16日 街頭演説。新しい公共・NPO優遇税制 緊急報告会(高槻市)。
 - 17日 各団体新年互礼会(京都、大阪)。
 - 18日 「一人ひとりを包摂する社会」(以下社会的包摂) 特命チーム会議。
 - 20日 朝日新聞取材「交通基本法」。国土交通(以下国交)部門コアメンバー会議。国交部門会議。日中友好協会新年会。
 - 21日 高槻障がい児者団体連絡協議会新年互礼会。
 - 22日 子育て家庭の移動を考えるフォーラム講演(京都市)。WANA関西15周年記念シンポジウム(大阪市)。
 - 23日 知人追悼会。
 - 24日 本会議。
 - 25日 新しい公共推進会議。交通基本法ワーキングチーム(以下WT)。中国大使館・孔鉉佑公使面談。民放解説研究会賀詞交歓会。
 - 26日 本会議。国交部門会議。
 - 27日 本会議。社会保障と税の抜本改革調査会。新しい公共をつくる市民キャビネット一周年記念イベント。
 - 28日 NPO議員連盟(以下議員)役員会。厚生労働省交渉「沖繩防災問題」。橋本紀子高槻市議を励ます会(高槻市)。
 - 29日 テレビ東京「田勢康弘の週刊ニュース新書」出演。
 - 30日 野々上愛高槻市議集会(高槻市)。
- 2月**
- 1日 米大使館・東京アメリカンセンター主催朝食会「中国外交・安保政策と日米同盟」。新しい公共打合せ。
 - 2日 国対正副委員長・筆頭・国対担当理事合同会議(以下国対合同会議)。国交部門会議。
 - 3日 新しい公共調査会役員会。
 - 4日 テレビ朝日「朝まで生テレビ」出演。
 - 5日 国政報告会「永田町航海記」(高槻市)。
 - 6日 高山右近利福祈願ミサ(高槻市)。
 - 7日 原稿執筆。
 - 8日 国交部門コアメンバー会議。
 - 9日 大阪東南アスベスト訴訟院内集会。国交部門会議。
 - 10日 NPO法改正打合せ。
 - 11日 TBS「時事放談」収録。高槻商工会議所懇親会(高槻市)。
 - 14日 新交通システム(LRT)推進議連総会。新しい公共推進本部・調査会合同総会。
 - 15日 本会議。新寄付税制・NPO法改正を求める院内集会。
 - 16日 国対合同会議。朝日新聞取材「新しい公共」。ウォールストリートジャーナル支局長面談。第一総研サロン講演。
 - 17日 NPO法改正打合せ。
 - 18日 毎日新聞取材「交通基本法と自転車」。
 - 19日 労働者弁護団との懇談会(大阪市)。川口洋一高槻市議を応援する会(高槻市)。
 - 20日 輪船ヨシ焼き(高槻市)。

- 21日 米国議員訪日団会合にて日本女性議員代表としてスピーチ。
 - 22日 日本国際交流センター主催「新・下田会議/激動する国際社会と日米戦略的パートナーシップの再構築」。社会的包摂特命チーム会議。
 - 25日 日中友好協会合会。
 - 23日 国交部門会議。東京交運協決起集会講演「交通基本法」。
 - 24日 NPO法改正打合せ。本会議。
 - 27日 若松校区コミュニティ祭(高槻市)。コリア国際学園卒業式(茨木市)。関西大学校友会懇親会(高槻市)。
 - 28日 徹夜本会議。
- 3月**
- 1日 新しい公共調査会役員会。国交部門コアメンバー会議。
 - 2日 国対合同会議。国交部門会議。
 - 3日 日中友好議連・程永華中国大使との懇談会。
 - 4日 全労済協会シンポジウム「希望もてる社会へ」(浜 矩子氏他)。
 - 5日 小沢福子大阪府議報告会(高槻市)。
 - 6日 自治体選挙予定候補者応援。
 - 7日 社会的包摂特命チーム。
 - 8日 国交委員会理事懇談会。
 - 9日 国交委員会・質問「交通基本法」。国対合同会議。
 - 10日 NPO法改正打合せ。
 - 11日 国交委員会。NPO議連役員会。※地震発生。以降、予定大幅変更。
 - 12日 東日本大震災対応。
 - 13日 内閣総理大臣補佐官就任。緊急災害対策本部会議。
 - 14日 緊急援助専門の各NGOとの合会。
 - 16日 内閣官房震災ボランティア連携室(以下、連携室)設立。震災ボランティア・NPOと政府の連携を考える会。
 - 17日 被災者生活支援特別対策本部会議(以下、被災者支援会議)。
 - 17～20日 各団体とボランティア派遣について面談(連合、経団連、JA、日本青年会議所、全国社会福祉協議会、日本看護協会など)。
 - 20日 テレビ東京「緊急報道特番・大震災のなぜに答える」出演。
 - 21日 被災者生活支援特別対策本部会議。※以降、ほぼ毎日開催。
 - 22日 記者意見交換。
 - 23日 日本青年団協議会事務局長面談。
 - 24日 被災者支援会議。
 - 25日 被災者支援会議。NGOと連携会議。
 - 26日 被災者主体の災害ボランティアコーディネーションを考えるついでin大阪。
 - 27日 被災者支援会議。
 - 28日 連携室会議。被災地と電話会議。
 - 29日 本会議。NGO打合せ。
 - 30日 東日本大震災支援全国ネットワーク設立総会。
 - 31日 連合(労組)被災地ボランティア出発式。本会議。日本財団面談。緊急災害対策本部・原子力災害対策本部合同会議。
- 4月**
- 1日 連携室会議。助け合いジャパン事務所訪問。
 - 3日 被災者支援会議。
 - 4日 被災者支援会議。連携室会議。BS11「IN side OUT」出演。
 - 5日 自治労委員長面談。NPO法改正打合せ。
 - 6日 各党・政府震災対策合同会議実務者合会。
 - 7日 震災ボランティア・NPO等と各省庁との定例連絡会議。
 - 8日 新しい公共調査会。新しい公共推進会議。
 - 9日 被災地ボランティアセンターと情報交換。
 - 10日 全閣僚集中討議(総理公邸)。
 - 11日 被災者支援会議。
 - 12日 連携室会議。神戸新聞取材。
 - 13日 堀田力・さわやか財団理事長面談。被災者生活支援会議。
 - 15日 被災地訪問(仙台市、セキ浜町)。
 - 18日 テレビ朝日「ワイド!スクランブル」出演。連携室会議。
 - 19日 日本医療社会福祉協会面談。震災ボランティア・NPO等と各省庁との定例連絡会議。
 - 20日 原子力被災者対策合同会議。連携室会議。
 - 21日 日本映画監督協会理事長崔洋一監督面談。ジェラルド・カーティス氏面談。岩手ボランティアコーディネーターと意見交換。
 - 22～24日 被災地訪問(盛岡市、遠野市、花巻市、大槌町、釜石市、気仙沼市、仙台市、亘理町、山元町、相馬市)。
 - 25日 被災者支援会議。
 - 26日 被災者支援会議。在韓被爆者面談。
 - 27日 総理大臣にボランティアの状況報告・提案。観光庁長官面談。ボランティア連携各省チーム合会。
 - 28日 本会議。記者意見交換。「官邸ラジオ」収録。
 - 29日 衆議院予算委員会。
 - 30日 本会議。



一人の被害者に、一人のケアする人が必要なくらいだと思う。

かやま・りか 精神科医、立教大学教授。1960年北海道生まれ。臨床経験を生かして社会批評、文化批評、書評などを手掛け、現代人の「心の病」について洞察を続けている。

人って、自分の居場所や出番があるなかで回復していく。そのプロセスをうまくサポートしていきたい。



辻元清美対談◎香山リカさん(精神科医・立教大学教授)



同じ年ということもあり、日頃から親しくさせていたただいている香山さん。精神科医という立場から見た震災、そしてこれからの日本についてお聞きしました。

香山 今回の震災では、ボランティアは自己完結で入れる人や専門知識を持っている人でないと、行っても迷惑になってしまうのではないかと言われていました。

辻元 実は私は最初から、ひとりでも多くの人が現地に行つた方がよいと思つていたの。現状を直視するのはすごく大事。現場で活動できなかったとしても、帰ってきた町でやることをやるとか、私はそれでもいいと思つています。

香山 私 も被災地に二度行きましたが、現地で家族を亡くした一〇代の青年と話したら、まさに同じことを言つてい

ました。「ただテレビで見ているだけでなく、とにかく見に来るだけでもいいから、一人でも多くの人に来てほしい」と。

香山 今回の震災では、ボランティアは自己完結で入れる人や専門知識を持っている人でないと、行っても迷惑になってしまうのではないかと言われていました。

辻元 人間の身の丈をはるかに超えた災害や自然の猛威、加えて起きた原発事故、そして今も瓦礫の下で行方不明になっている方がいて、家族の方々が苦しんでいる。それらをどう受け止めて、これからの日本の政治や社会のあり方、エネルギーをどう変えなければいけないのか。そして果たして私たちはどんな未来を描くことができるのか。今、すべての人が突きつけられている。

香山 一人一人の方が一万五千人以上も亡くなっているわけですよ。そのご家族を考えると、もうたいへんな数。本当は一人の被災者に二人、ケアする人が必要なくらいの状況なんです。もちろん国が、何十

万人の人それぞれにオンデマンド型の支援をするのは不可能だけど、でもそれだけの人が本当に辛い状況にいることを、政治の側にいる人には忘れてほしくない。

辻元 そのために、今実現しようとしているのが、「新しい公共」。NPO・NGOはじめ、助け合いのネットワークをどう作るかということです。それから、子どもたちの世話や瓦礫の撤去、町のパトロールなどを、外部の人に頼るのではなく、被災者自らの仕事に

辻元 実は私は最初から、ひとりでも多くの人が現地に行つた方がよいと思つていたの。現状を直視するのはすごく大事。現場で活動できなかったとしても、帰ってきた町でやることをやるとか、私はそれでもいいと思つています。

香山 一人一人の方が一万五千人以上も亡くなっているわけですよ。そのご家族を考えると、もうたいへんな数。本当は一人の被災者に二人、ケアする人が必要なくらいの状況なんです。もちろん国が、何十

万人の人それぞれにオンデマンド型の支援をするのは不可能だけど、でもそれだけの人が本当に辛い状況にいることを、政治の側にいる人には忘れてほしくない。

辻元 そのために、今実現しようとしているのが、「新しい公共」。NPO・NGOはじめ、助け合いのネットワークをどう作るかということです。それから、子どもたちの世話や瓦礫の撤去、町のパトロールなどを、外部の人に頼るのではなく、被災者自らの仕事に

作つてもっと産業を興せばいいというのは、さすがにもう、違つたのではないかと思わざるを得なくなつた。もしかしたらもう電気も自由に使えるようになるかもしれないけど、でも、こつちのほう人間らしかったなど、感じ始めているようなところがあると思う。

香山 今回の震災では、ボランティアは自己完結で入れる人や専門知識を持っている人でないと、行っても迷惑になってしまうのではないかと言われていました。

辻元 人間の身の丈をはるかに超えた災害や自然の猛威、加えて起きた原発事故、そして今も瓦礫の下で行方不明になっている方がいて、家族の方々が苦しんでいる。それらをどう受け止めて、これからの日本の政治や社会のあり方、エネルギーをどう変えなければいけないのか。そして果たして私たちはどんな未来を描くことができるのか。今、すべての人が突きつけられている。

香山 一人一人の方が一万五千人以上も亡くなっているわけですよ。そのご家族を考えると、もうたいへんな数。本当は一人の被災者に二人、ケアする人が必要なくらいの状況なんです。もちろん国が、何十

万人の人それぞれにオンデマンド型の支援をするのは不可能だけど、でもそれだけの人が本当に辛い状況にいることを、政治の側にいる人には忘れてほしくない。

辻元 そのために、今実現しようとしているのが、「新しい公共」。NPO・NGOはじめ、助け合いのネットワークをどう作るかということです。それから、子どもたちの世話や瓦礫の撤去、町のパトロールなどを、外部の人に頼るのではなく、被災者自らの仕事に



香山 そう、私たちはむしろこういう生き方を選択したのだと胸を張って言えるようになってはじめて、成熟した社会の姿を見せることができますよね。

※対談のより詳しい内容は、辻元清美公式サイトで公開します。
<http://www.kiyomi.gr.jp/>